

はまゆう

浜田高校同窓会紙

事務局 〒697-0024
島根県浜田市黒川町3749番地
TEL 0855-22-0042
FAX 0855-22-2457
発行：浜田高校同窓会
編集：浜田高校同窓会紙編集委員会
印刷：柏村印刷株式会社

二十一世紀の若者たちへ

今回は教育の現場でユニークな試みをされているお二方に日頃の活動について書いていただきました。

山田善春さんは、大阪市立高校で教鞭をとる傍ら、理科教育の危機を救うべく自らが世話人となってインターネットを活用した科学教育サークル「オンライン自然科学教育ネットワーク」を立ち上げ、また複数のテレビ番組でも「おもしろ理科の先生」として活躍中です。

森脇良孝さんは、地元浜田の水産加工を手がける研究で身を立てようと大学院に進学後、教育の道に転向。その後幼稚園、小学校、中学校、高校、水産高校の教員免許を取得。昭和五十四年には保育士の資格も取得し、五十五年より島根県第一号男性保育士としてスタート。現在は浜田圏域最大の5園を運営する社会福祉法人誠和会の理事長として子どもたちとの日々を歩んでおられます。

科学を楽しむ時代が来る！

大阪市立生野工業高等学校理科教諭
全国科学教育ボランティア研究大会実行委員長
山田 善春（二十五期）



子どもの頃からの理科好きが縁で、私は浜高理科に進み、大学で物理を学び、現在高校の理科教員に。休日にはボランティアでサイエンスショーや科学実験教室などを行っている。そのような活動が評価されたのか、一九九九年に日本物理教育学会から大塚賞を受賞。また二〇〇一年に科学

教育ボランティアの研究交流を目的とした「全国科学教育ボランティア研究大会（科ボ研）」を創設、休日返上の科学教育ボランティア活動に関わって来た。そのあたりの経緯を紹介したいと思う。

明治以降、資源が乏しい日本は科学技術を中心に据えて発展して来た。このような科学技術立国を継続する事が日本の繁栄の維持には必要だ。それ故、若者が科学の楽しさ・面白さを実感し体験する事は、科学技術を学ぶ上で必須である。一九五五年生まれの私はそのような考えを当然のように感じ、理系に進んだ。また後に教員になり、合理性と実証性を

柱とする科学の方法を学ぶ事が人格形成に重要である事を知った。しかし八〇年代後半のバブル以降、若者に科学技術を3K（きつい、汚い、危険）として嫌う「理科離れ」と呼ばれる現象が現れ、理系への進学・就職が敬遠されるようになる。当初、理科関係の学会がこの現象を取り上げ、政府へ理科教育を改善するように迫ったが、官僚の対応は要領を得ず、理科教員の私は危機感を募らせた。

しかし九二年から若者に科学の実験・工作を体験させ、科学を大好きになってもらう事を目的に全国規模で始まった「青少年のための科学の祭典」に私はたまたま参画し、ボランティア活動の素晴らしさを知った。そこで九六年に「オンライン自然科学教育ネットワーク（ONSEN）」を立ち上げ、ボランティア活動を始めた。その後ONSENには教員、サラリーマン、主婦などが参加（現在約五百人）し、年間五十会場以上の実験教室やサイエンスショーを行っている。ONSEN以外にも冒頭に紹介した「科ボ研」を〇一年から始めた。全国から毎回百人を超えるボランティアが集まる。今まで京都、静岡、岡山、千葉で開催。今年は愛知で第十二回大会を開催する。この大会に集うボランティアは精力的な活動家が多く、各地の活動の拠点になっている。



サイエンスショーの実演に興味を惹く児童たち

また〇七年から大人が学ぶ事を楽しむ「どきどき斎塾」を立ち上げた。これは大人対象の科学教室、サイエンス・カフェの大阪版ともいえるもので、江戸時代の通塾を真似、講演会や見学会などを毎月開催している。塾生は百人を超え、好評を博しているようだ。

私個人は世間に活動を知られ、

子どもたちが大人になつたときの世の中は…

社会福祉法人誠和会 理事長
森脇 良孝（二十四期）



森脇理事長とみなと保育園の園児たち

「午睡」という言葉がある。これは私たち保育園関係者がよく使う一種の業界用語で、何のことはない「お昼寝」ということである。これを保護者に「ゴスイ」といってもピンと来ない。このように簡単な単語でも独り善がりに業界用語を使えば、相手からすると意味不明のため会話が続かなくなることも多々ある。ところで「少子高齢化」というマスコミ用語が一般に周知されて久しいが、都市部の保育園ではその言葉と裏腹に、幼い子で溢れかえっているところが多い。施設数の不足も甚だしい、片方ではこんな現実もあるのだ。

現在の社会福祉予算を見ると、児童福祉関係対老人福祉関係はおよそ1対9と言われている。また年金も以前は8名以上の現役世代が1名の老人を支える安定した「神興型」だったものが、近年は3人で1人を支える「騎馬戦型」になり、ゆくゆくは1人が1人を支える、よろけること必至の「肩車型」になると予測されている。こうした将来の担い手である子どもに対するわが国の投資は少なく、また画期的な対策もなく、寂しい限りである。

そうした中でも私たち保育者の

十年ほど前から大阪の朝日放送「探偵ナイトスクープ」などのテレビ・ラジオ番組に出演するようになった。最近、私のやって来た活動が功を奏したのか、「理科離れ」が改善されて来たようだ。若者だけでなく一般市民の方々も科学を楽しむ時代になって来たら、大成功。ならば本当に有り難いと思う。

使命は、乏しい予算を上手に使うで、将来の超高齢化社会に対応できる人材に育て上げることである。その基本は、①子どもなりに現状を認識できる力を養う、②将来の夢を描ける創造力を身に付ける、③達成実現できるための行動力を備える、ことだと考えている。子どもだと思つてバカにしてはいけない。普段園児たちと接していて、よほど大人より適応力や記憶力に優れていると実感する場面も多い。

世間の人から見れば同じ子どもの施設なので「保育園」と「幼稚園」の区別がつきにくい。家族みんなが働いている家庭の子は保育園、母親が家に居る家庭の子は幼稚園という区別は良いとしても、貧困



家庭の子が行くのが保育園との偏見を持っている年配者が依然として多いのには驚かされる。その保育園と幼稚園の垣根を取り払おうと、新制度により生まれたのが「認定こども園」である。

私どもの法人は、その島根県第一号として旭町の矯正施設敷地内に「あさひ子ども園」を開設した。この開園については矯正施設運営会社の全面支援はもとより、地元旭自治区をはじめとする官民一体となつた応援により実現できたものである。開設に不安を持つ私の背中を最後に押してくれたのは浜高同級生の面々である。今でも本当に感謝している。

昭和二十九年の「みなと保育園」開設以来、私で3代目理事長となる。3代目がしくじると会社や組織は壊滅することは歴史が証明している。その重圧の中での冒險的決断であつたが、良き人材に恵まれて順調に推移している。

「午睡」は昼寝であると同時に、子どもたちの安息の場であり、まさに幼な子の象徴である。目覚めた時は現実に戻る瞬間でもある。将来子どもたちが「午睡」から目覚めた時、現実の大人社会が、「超過重負担」という暗黒の世界になっていないことを願うばかりだ。

浜高ライフ

部活動と新しい
取り組みについて

甲子園に出たい！

硬式野球部主将

小笠原 敏也

私は甲子園に出たいという思いで硬式野球部に入学しました。しかし、実際に入部して練習に参加すると、勝つための技術を磨くのはもちろんですが、それ以上に挨拶・礼儀など社会に通用する人間になることを大切にしていることがわかりました。あたり前の事をきちんとできるような人間になれば、それが普段の生活はもちろん、野球のちよつとしたプレーにも出ます。野球と野球以外の日常生活に深く結びついていることを、少しずつ実感しています。今はしんどいこと、つらいこともたくさんあります。それを耐え抜く力、そしてその壁を越えたときの達成感や自信、そういうものが自分の武器になっていくのだと考えます。部活動の中では、そのような体験を喜びに感じながら、しっかりと成長していきたいと思っています。

支援者に感謝

硬式野球部監督

山田 勇太
(五十四期)

浜高の野球とは精神力の野球だと考えています。その精神力を鍛えるためには日々の練習です。生徒が練習に集中できる環境があるのも、保護者の方やOBの方々、そして地域の方々の支えがあるからです。練習時間が限られているので、個人練習の時間を多くしています。今後は夏の大会に向け、チーム練習の時間を増やしていきたい、「絆」をテーマに頑張っていきます。



■第4回選抜出場(昭和26年甲子園)

H I R A K U

教諭 坪倉 将

総合的な学習を「HIRAKU」と呼んでいます。

主体的に問題を解決する能力や、自らとは異なる文化や価値観を持つ人とも円滑な人間関係を築き、共同して作業を進めていくなど、広い意味での「人間力」を高めるためにはじめました。高いコミュニケーション能力や問題解決力、論理的な思考力などの育成を目指して取り組んでいます。

「HIRAKU」での

主な取り組み

1年生は「開(ひらく)くーくー心・眼・耳・口を開こう」というテーマ設定の下、入学直後の人間関係づくりや4月末の三瓶宿泊研修に始まり、大学教授による出前講義などを行いました。
2年生は「啓(ひらく)くーくー社会に学び、自らを啓こう」というテーマ設定の下、浜田市内の4企

定時制に昼間部が出来た

定時制・通信制課程 教頭 石飛 智弘

県教委は平成十八年に、生徒一人ひとりの学びを実現する高校として、単位制の高等学校の設置基本構想を発表しました。この基本構想の下、四月、既存の定時制夜間部に昼間部を拡大しⅡ部制とし、さらに通信制課程を設置

することで、県西部の定時制・通信制教育の拠点的作用を担う学校として、新たにスタートしました。

また、単位制を導入することで他校でこれまで修得した単位も生かせるようにし、学び直しの



■島根大学生物資源科学部での研修の様子

業・法人と提携し、企画・商品開発を行ったり、さまざまな職業現場の最前線で活躍されている方をお招きした出前講義などを行いました。

3年生は「拓(ひろ)くーくー未来を自ら切り拓こう」というテーマ設定の下、論理的な文章表現力の育成や、集団でのリーダーシップ体験などを行いました。

機会も広がり、学習スタイルが昼・夜・通信と3タイプから選択できるようになりました。

教室棟・管理棟・特別教室棟の三棟からなる定時制・通信制の専用校舎も北側に新たにできました。一階建て延べ面積約2500㎡の校舎では、体育を除くほぼすべての講座を開設、より充実した教育環境が整いました。

単位制による定時制・通信制課程という新しいステージを新たに加えることで県西部における浜田高校の役割はますます重

理数科はおもしろい！?

理数科主任 阿部 志朗

昨年度から「課題研究」を復活させました。やはり理数科といえは「課題研究」！国の施策でも理数系分野への教育について重点が置かれるようになっていきますし、数年前から島根県内では理数科の生徒課題研究発表も始まっています。昨年度の課題研究のテーマは次のようなものでした。

「ハッチョウトンボの生育環境」・「環境に配慮した電動模型飛行機の活用」・「黄長石霞石玄武岩の油薬利用」・「周布川の水質」など。

環境や地域を題材にしたテーマを中心に、生徒が個人またはグループで設定したテーマの実験・観察に取り組みました。課題研究に打ち込んだ生徒からは『研究を進めていくといういろいろな知識が必要で、普段からいろいろな科目の勉強が大切だと分かりました』とか『自分が本当にやりた

要となり、伝統に恥じないように努力していきます。



■剣道場跡に
建った校舎
(下は旧剣道場)

平成23年度 進路状況

種 別	現役生(延べ数)	過年度生(延べ数)	合計(延べ数)
国立大学	62(69)	15(15)	77(84)
公立大学	13(16)	4(5)	17(21)
私立大学	84(193)	4(23)	88(216)
公立短大	3(8)		3(8)
私立短大	8(16)		8(16)
高 看	10(10)		10(10)
専門学校	8(8)	1(1)	9(9)
大学校等	2(2)		2(2)
就職状況	公務員3名	一般就職1名	



■先端研究施設の研修の様子
(九州国立博物館)

浜田の今昔 ～あのころの風景～

夏と甲子園

渡邊 敏明 (二十八期)

浜高硬式野球部は昭和二十六年春に初めて甲子園出場を果たしています。野球部創設が明治三十四年ですから、なんと半世紀の間甲子園に出場できなかった訳で、当

時は島根県高校野球界の謎と言われていたそうです。初出場以降それまでが嘘のように甲子園に出場していきます。

さて、なんと言っても浜高の甲子園は【夏】のイメージです。

灼熱の太陽のもと、県予選を勝ち上がっていく高揚感、甲子園出場が決まれば浜田市を挙げての盛り上がりとなります。三十数年前、甲子園での活躍で全国的に有名になり、筆者が学生生活を送った土地でも浜高出身と言うと「おお！ 島根の浜高か！」という反応で、想像以上の知名度に驚き、誇らしく感じたことを思い出します。

真夏の甲子園で、ひとときわ爽やかなイメージがある



■昭和46年「良くやった浜高ナイン紺屋町パレード」



■昭和54年「夏第61回大会」

のが浜高野球です。その「爽やか野球」は浜高伝統の校風(素朴でまじめ)に由来していると思うのは私だけでしょうか？今年こそ甲子園での勇姿を再び私達に見せて欲しいものです。



石見神楽を世界に発信

島根県西部県民センター商工労政事務所
下野 貴志 (四十三期)

私が神楽を始めたのは小学校三年生の時。地元の神楽社中に幼いときから憧れ育ったのでした。当時はイベントも少なく、地元の節分祭や老人ホームの慰問程度しか出演機会もなかったが、一生懸命に練習したものだった。中学、高校は柔道部に所属し、毎日ヘトヘトになるまで部活に明け暮れていた。浜高を卒業後も市役所に勤務するようになつて、再び血が騒ぎ出した。

市役所の神楽同好会に誘われたのをきつかけに再び神楽の世界に戻った。その後、地元社中と市役所の神楽同好会の二足のわらじで神楽に取り組むことになった。二年前からは、島根県西部県民センター

に出向し、県西部の観光振興を担当。石見神楽を核とした観光誘客にも取り組み、公私共に神楽漬けの毎日を過ごしている。

折しも、今年は古事記編さん1300年目を迎える節目の年。島根県では、「神々の国しまねプロジェクト」と銘打って大規模な観光キャンペーンを展開中である。七月から出雲大社周辺で開催される「神話博しまね」では、ほぼ毎日石見神楽がステージを飾る。全国から来場するお客様をおもてなしすることとなり、石見神楽に寄せられる期待は大きい。

さて、地元では観光素材として期待されている石見神楽であるが、実はそのエンターテインメントとし

ノモンハン 語られざる戦い 水産高校放送部制作

――高校生ビデオコンクールで最優秀賞受賞――

坂本 文江 (二十期)

今、ノモンハンの戦いについて知っている人はどのくらいいるのでしょうか。城山の青少年ホームに向かって左側にノモンハン戦争の慰霊碑があります。ノモンハン事件とは、第二次世界大戦前、一九三九年五月から八月にかけて、中国黒竜江省西北部ノモンハン付近のホロンバイル草原において、モンゴル・ソビエト連合軍と満州・日本連合軍が激突、日本軍が壊滅的な打撃を被った戦いです。島根県出身者は歩兵第二十二連隊に入隊後、広島で編成された歩兵第七十一連隊へ転属、その後満州へ派遣されました。戦死者数七、六九六人中県出身者は三百余人と記されています。

戦後、ノモンハン事件に参加し、生存している島根県出身者でハルハ会を結成、以後毎年九月十六日の停戦記念日に慰霊祭が行われてきました。昭和五十一年には、遺族、生存者の拠出によって、部隊の発祥の地である浜田市の護国神社の境内に慰霊碑が建立されました。

慰霊碑という雄大な文字は、当時東京在住の村田昌夫氏が亡き戦友への思いと平和を祈念して沐浴齋戒し三ヶ月の期日を要して出来上がったものです。その後、会員の高齢化と減少が急速に進み、慰霊祭の開催も難

しくなりました。そんな状況の中、生存者の思いを受けとめ、事件を風化させないために平成十八年にノモンハンを語り継ぐ会を結成しました。浜田高校時代の恩師である牛尾先生が護国神社の宮司をしておられ、協力を得て、慰霊祭、語る会とも毎年九月に継続して行うことができるようになりました。

ノモンハン戦当時、最年少の現役兵だった人もすでに九十代後半で、この会がいつまで続けていけるのか当時は想像もつきませんでした。

生存者の方々の最後の一人になるまで続けたいという強い思いに背中を押されて会を続けるうち、平成十八年に出席された出雲の岡実智子さんという当時四十代の女性が、膨大な資料を詳細に調べ、ノモンハンの考察文を発表。さらに平成二十二年には、私が浜田水産高校に講師として行ったのが縁で、放送部の生徒たちが、ノモンハンを語り継ぐ会の活動をビデオに録画。その後関係者を時間をかけて取材し作成した「ノモンハン語られざる戦い」というビデオが、今年二月に東京新宿の平和祈念展示資料館主催高校生平和祈念ビデオ制作コンクールにおいて最優秀賞の栄誉に輝きました。



■城山にある浜田県庁の門とノモンハンの慰霊碑



先に紹介しました岡さんは、文の最後に、ノモンハン戦は、私たちの郷土とも関わりがあり、人が生きてゆく上での大切な指標も随所に伺えます。この戦いについて、現代の方々に読み、知っていただくだけでなく、文字として記録され、伝承されるかもしれないことを願って筆を進めてきました」と記されました。

今後も「語り継ぐノモンハン」の活動が、様々な世代に人々に、戦争の実相を知り、平和について考えるきっかけとなることを願ってやみません。



■サウジアラビアでの石見神楽公演

平成24年度イベントスケジュール

■石見神楽定期上演

通年：ゆうひパーク浜田定期公演
毎月第2・4日曜日 13:00～15:00
詳しくは「ゆうひパーク浜田」HPにアクセス!!
4月～11月
はっしー広場(アクアス内) 定期公演
週末・祝日など 詳しくは「アクアス」HPにアクセス!!
8月
17日～31日…石見の夜神楽毎日公演／石央文化ホール
26日…長浜八朔花まつり(長浜町)
9月：石見の夜神楽毎日公演
1日～9日…石央文化ホール
10日～16日…旭温泉
17日～23日…金城山村開発センターみどりかいかん
24日～30日…美又温泉会館
11月3日…BB大鍋フェスティバル／浜田漁港
18日…日本石見神楽大会／石央文化ホール

■石見神楽出張上演

浜田市外からお越しいただいた10名以上の団体様のご宿泊先に石見神楽が出張し、上演します。ダイナミックな神楽の舞いを間近でゆったりと鑑賞しませんか。
料金：10,000円 上演時間・演目：1時間以内・2演目以内
会場：浜田市内の宿泊施設等
申し込み・お問い合わせ先
浜田市観光協会Tel.0855-24-1085



第6回山口・九州地区同窓会
時:平成23年11月20日(土)
所:博多都ホテル

今回は山口との合同同窓会。倉本校長先生、土田浜高同窓会副会長にもご参加いただき、総勢35名(うち山口4名)で楽しい時を過ごしました。
吉田利治(9期)



第1回熊本同窓会
時:平成24年4月14日(土)
所:桃花源(熊本市)

熊本在住の卒業生10名に福岡在住5名が参加、第1回熊本同窓会が開催されました。
尾原祐三(24期)

地区同窓会
同期会だより



3期 傘寿同窓会
時:平成24年5月25日(金)
所:浜田ステーションホテル

54名が参加し、少し早い「傘寿の祝い」を行いました。石見神楽の「恵比須」「大蛇」に感動し、翌日は津和野観光を楽しみました。
久保順子(3期)



**平成23年度
浜田高校同窓会総会**
時:平成23年8月13日(土)
所:浜田ワシントンホテルプラザ

全国から238名の卒業生が集まりました。日原文台の齋藤和幸氏(幹事期の27期)が「宇宙への憧れ」という演題で記念講演を行いました。
滝口素行(27期)

在京浜高同窓会総会
時:平成23年11月26日(土)
所:アルカディア市ヶ谷

本年は157名が参加。益田英夫(45期)クインテット with 天白由紀の皆さんによるジャズ音楽を楽しみました。
朝田正道(26期)



21期還暦同窓会
時:平成23年8月13日(土)
所:浜田ワシントンホテルプラザ

全国から浜高21期卒業生103名が浜田に集まり還暦同窓会を行いました。
久保田章市(21期)



在京9期同窓会
時:平成24年3月22日(木)
所:高尾山薬王院

在京9期は毎年3月に同窓会を開催。34回目にあたる今年は高尾山薬王院にお参りし、御護摩修行を受け精進料理を味わいました。
松原紘(9期)

写真・記事募集の
お願い

送付先 102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1 法政大学IM研究科 久保田章市 03-3264-5002 skubota@hosei.ac.jp
平成24年度に開催される地区同窓会、同期会の写真・記事がありましたら、来年5月までにファイルまたは郵送でお送りください。
記事の掲載に関しては編集委員会に一任ください。

地区同窓会連絡先

名 称／会長	連 絡 先	電話／E-mail	総会時期
浜高同窓会(本部)／岡田久樹(11期)	浜田市黒川町3749 浜田高校 同窓会事務局	0855-22-0042	8月中旬
在京浜高同窓会／坂根正弘(10期)	千代田区五番町2-14カーサ五番町602号 事務局長 猪山雄治(17期)	03-3239-2414 inoyama602@nifty.com	11月最終土曜日(本年は12月1日)
近畿浜高同窓会／戸津川明克(9期)	西宮市北六甲台4-22-5 事務局長 本郷克子(14期)	078-903-2361 khongo1227@bca.bai.ne.jp	1－2月
浜高広島地区同窓会／角田紘司(13期)	広島市安佐南区長楽寺3-33-6 会長 角田紘司(13期)	082-872-1510	10月頃
九州地区浜高同窓会／吉田利治(9期)	福岡市東区美和台2-1-9 会長 吉田利治(9期)	092-606-6932 yoshida14817@hb.tp1.jp	2年に1回(次回は平成25年)
在松亀山会／若佐博之(9期)	幹事は県庁、県警、山陰合銀の持ち回り 事務局 田中紹資(41期、山陰合銀)	0852-55-1965	10月頃